

F D C 役員が語る

# あの時、この時

～私とFDC～

FDC役員の方々に、FDCに対する思いを語っていただきました。

(順不同、敬称略)

## 理事 伊藤 敏雄(愛知県総務部長)

FDCは、愛知県の尾張西部地域の繊維を中心とした地場産業を総合的に振興する拠点施設として、国の地場産業振興センター建設制度を活用して建てられた重要な施設であります。昭和59年2月の開館後はファッション振興を中心に事業展開がされ、地域産業の振興に多大な貢献をしてきました。

この20年の間に、繊維産業の構造も大きく変化し、また、産業を取り巻く環境もグローバル化が一層進むなど、社会情勢は大きく変化しております。このような中、FDCにおいては尾張西部地域の24市町村の協力を基に、各種産業が有機的に連動し活性化する事業展開を図ろうと、今年度からファッション振興事業に加え新たに地域おこし事業を実施し、その中心事業として地場産品発掘事業を実施しております。今後もFDCが、一宮市を始めとする尾張西部地域の経済を支援する中核機関としてのその機能を充分発揮できるよう、念願しているところであります。



開館間近のFDC

## 理事 久保 泰男(愛知県産業労働部長)

FDCは、県尾張西部地域において、一宮市を始めとする市町村や業界のバックアップを受け、繊維産業を中心とした地域産業発展の原動力の役目を果たしております。

近年、中国等からの輸入製品の増加により、毛織物の産地である尾張西部地域の経済環境は誠に厳しい状況にあります。このような中で、FDCは、この20周年の節目に大幅な改革に取り組み、新商品開発、創造的マーケット養成講座、日本初の糸の展示会であるジャパン・ヤーン・フェアの開催を始めとするプロモーション事業など、新たなチャレンジを進めており、今後も地域産業の発展に貢献されることを期待しております。

県といたしましても、地域産業を振興する施策を強力に推進する所存であり、とりわけ、産業技術研究所尾張繊維技術センターでは繊維分野の研究開発、指導をおこなっており、FDCと一体となって、地域産業の振興に取り組んでまいりたいと考えています。

## 理事 若山 金茂(一宮市議会議員)

一宮の繊維産業の不振が叫ばれて30年。大きな不況が急に襲ってくれば、おそらく業界あげて、そして行政も政治もその再生のために、真剣に最大限の回復策を講じたと思われますが、じわじわと衰退が進んだために、そのうちに何とかなるだろうと、徹底した抜本策を講じることなく今日に及んでしまいました。

バーゲンストアの客層とは違った、質の高いものを望む客層に合わせた製品の開発、生産、販売をする業界に変身しなければ、生き残れないと私は認識しています。その製品が海外に輸出できればなおよろしい。

独創性のある製品を開発し販売するためには、業界の構造改革により、高い専門性を持った強い意欲のある企業のグループ化が必要と考えますが、そのための推進役であるFDCの役割は大きく、その責任は重い。一宮市議会としても繊維産業発展の責任の一端を担っていることを再認識し、FDCをできる限り応援したいと思っています。

## 理事 板倉 正文(一宮市議会議員)

私は「繊維のまち一宮」に住み22年、FDCの歴史とほぼ同じ歳月を過ごし、繊維に従事する人、離れた人等と知り合い、それぞれの方の繊維への情熱に、FDC理事(2年目)をしていることの責任を強く感じています。

私は、繊維で生きる人の応援ができる機会になればと、「尾州・一宮ブランド」をつくろうと提案し、今その方向での取り組みも進んでいますが、繊維会社の倒産が相次ぎ、厳しい状況にあります。個々の努力も必要ですが、ありとあらゆる知恵を出し合い、世界でも優れた繊維技術を生かす「地場産業の繊維」の発展に取り組むFDCにできればと思います。

繊維について最も語り合えるところが「FDC」であり、世界の「ファッションデザインセンター」となるよう熱い思いを込めていきたい。



第31回全国織物競技大会

## 理事 野村 直弘(一宮市議会議員)

平成9年市議会副議長在職時代、各自治体議長との交流事業の一環で、県下では有力な市でありながら、日頃関係の浅い2市の議会議長に、今後の友好を深める為にも、当時FDCで開催されていた一宮市のファッションショーを見て頂こうと招待をしたことがあります。本場のモデルが、世界でも一流のデザイナーの衣装をまとい、華麗な音楽とともに乱舞するそのショーは観客を圧倒し、見る者の言葉すら失わせた。絶賛の興奮の余韻も冷め止まないまま懇談も終わり、無事解散となった時、随行の相手方の議会職員が「これほどまでの行事はとて他自治体では

行っていない、お返しのご招待は出来そうに無い、困ってしまうな」とつぶやいているのを耳に挟みました。

状況が変わり、ショーとしての事業はなくなったものの、FDCに於いてはファッションも含め繊維産業発展のための情報発信事業は衰えることなく続けられています。繊維の情報を発信し続け、繊維産業を基幹産業とする一宮にとって正に、FDCはシンボルであってほしいと願うものであります。



昭和60年イラスト展

### 理事 三輪 優(津島市長)

一宮地場産業ファッションデザインセンター（FDC）の開館20周年誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

FDCが開館されました昭和59年当時はチェルノブイリ原発事故、ニューヨーク株式市場大暴落やイラン・イラク戦争など世界中に衝撃の走る事件が相次ぎました。

経済情勢といたしましては、バブル時代を迎え、土地は高騰し、円相場が次々と最高値を記録したのもこの頃でした。

現在におきましても、イラク情勢を始めとした世界の動きや、国際情勢に伴う円高や国内の雇用情勢など非常に厳しい状況にあります。

こうした中、来春には、愛・地球博の開催、中部新空港の開港も予定されて、地球規模での交流時代を迎えようとしている今日、FDCに寄せられる期待は、ますます高まっております。

この20周年を新たな飛躍への出発点として、関係各位の一層のご精進をいただき、国際社会に尾張地方の毛織物産業をアピールして頂くよう心からお祈り申し上げまして、私の言葉といたします。

### 理事 堀 元(江南市長)

一宮FDCが満20周年を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。

かつて、尾張地方の繊維産業は、「お蚕様」で代表されるように豊かな木曾の流れと温暖な気候に育まれた天恵の産業として発展してきました。

その長い歴史の中では、オイルショックまた円高ショックの大きな波を受けましたが、これ乗り越え、現在も全国屈指の毛織物の産地となっております。

この間の業界及び関係各位のご努力には、深い敬意と感謝の意を表するものです。

又、我が郷土江南市におきましても市域を桑畑が点在していたように養蚕が栄え、そこから製糸、更に絹織物となり現在も全国有数の高級カーテンの歴史となっております。

その中心を成したものは、尾北地方に県下の事業所の大半が集積している撚糸業であり、時代の趨勢と併に近代的設備と新技術の導入により、その製品である高級カーテン地を支えてきました。

しかしながら、昭和40年代中頃から減少の一途を辿り、現在では最盛期の30%程度まで落ち込んでいます。

このような状況から「尾張の繊維」復活を目指して設立された、一宮FDCの役割は極めて大きなものと言えます。

今後は、その使命というべき情報収集、技術開発等、地場産業の再興に向け、ご精進いただきますよう祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



86/87AWFDCテキスタイルトレンド展

### 理事 丹羽 厚詞(尾西市長)

FDC開館20周年誠におめでとうございます。私個人といたしましても、もともとこの業界（染色整理）に携わっており、市長として理事を努めさせていただくことは、まだ一年にも満たないわけですが、FDCには以前より、何かとお世話になっていた次第です。

まずもってお祝い申し上げます。と申しましても、冒頭から暗い話題で恐縮ですが、この20年間、特に近年は、尾張の繊維業界は大変厳しい状況の中で、衰退の一途を余儀なくされていることは誠に残念で憂慮に堪えません。こうした中、FDCの果たしてきた先進情報の収集・提供、人材育成、技術開発、商品開発等の支援事業を、この地域の関係諸団体・企業との今まで以上の力強い連携のもとに、一層の推進を図っていただきますと共に、大きく時代が変わり、求められるニーズも変わろうとしている今こそ、これを契機にFDCが更なる変革と成長が進みますことに大いなる期待と尾州産地再生の望みをかけております。

### 理事 浅田 清喜(尾西市議会議員)

FDCは尾張西部地域の地場産業を図るため、昭和59年2月に開設され、この2月で開館20周年を迎えられます。

この20年間、繊維産業にとっては、とても厳しい時代であったと思います。安価な繊維製品が、中国をはじめとするアジア諸国から大量に輸入されるようになり、尾州地方の繊維産業は大きな打撃を受け、繊維関連の事業所、従業員数、製造品出荷額で、10年前と比較しますとほぼ半数に減少しています。このような状態が続くと尾州産地は消滅してしまうのではないかという危機感を覚えてしまいます。

FDCでは、国内外の企業との産業ネットワークの形成、創造的人材の育成、高付加価値化を支援する等、積極的に役割を果たされ、この経済状況下、着実に成果を上げてこられました。

今後も繊維産業はこの地方の大切な基幹の産業でありますので、世界をリードする尾州産地の復活を支援いただけるFDCでありますことを祈念いたしております。

## 理事 服部 幸道(稲沢市長)

FDCの開館20周年を迎えることができましたことは、地元一宮市を始め、関係各位皆様の格別のご理解とご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。

これを契機に、当ファッションデザインセンターの基幹であります繊維産業の健全な育成及び発展はもとより、尾張西部地域における地場産業の振興に寄与するため、今後とも構成市町村の一員として可能な限りの協力をさせていただくつもりです。

さて、昨年、FDCより、地域交流事業である手織教室を稲沢市で開催したいので会場を提供してほしいとの要請がありました。広報等で募集いたしましたところ、申し込み初日のわずか1時間ほどで定員となり募集を締め切ったほどの人気の高さであったことを聞き、ファッションに対し一般の方々の関心も高いものと改めて認識しました。

手作りへの関心、楽しさを通し、ひいては地場産業やFDC事業への関心が広がることを期待しています。

この地域の産業を取り巻く環境は、依然として非常に厳しいと認識しています。FDCにおいても、更なる地場産業の振興に寄与するための事業について検討を進めてきました。その一つとして「地場産業活性化地場産品発掘事業」として地域の活性化につなげるための取り組みが進んでいると聞いています。

今後とも地場産業の拠点として、FDCの発展を期待しています。



91/92AWFDCテキスタイルコレクション

## 理事 山口 昭雄(木曾川町長)

地場産業への貢献のためにその役割と機能を高め続けてきたセンターの歴史において、事業者のためにFDCの扉を開くという、行政担当者としての自分の役割を十分果たせたかどうか、誠に心もとない限りです。

歴史ある尾州の起死回生をめざして、今それぞれの首長が「起業家」の精神で2市1町の合併に取り組んでいますが、私が特にこだわりを持って提案しているのは、「地域ブランド力の向上」です。21世紀には、単なる経済力を越えるブランド力と「グレード」の確かさが求められていると考えるからです。ここにおいてFDCのめざすところとわが新都市の目指すところは一致するはずであり、新都市誕生のためにFDCをひとつの推進力と頼んでいきたいと考えるのは、私一人ではないと思います。

FDCの次なる20年が、尾州新都市の躍進の20年となるよう祈念し、お祝いいたします。

## 理事 友松 隆利(祖父江町長)

FDC開館20周年を迎えるにあたり一言、私の所感を述べさせていただきます。

今日における日本経済の国際化は、あらゆる分野に広がっています。特に情報分野における進歩は驚くばかりのスピードであります。一方、国際的な事業展開に伴う地域産業の空洞化は、我が町においても様々な問題が惹起しています。特に農業、繊維産業への影響は後継者問題と共に大きな課題となっています。しかし一方では事業活動を世界的な規模で展開している企業もあります。プラスマイナスを考えたとき、ある識者の言葉に「企業も、業種も、街も、国家もそして個人も・・・これからは世界全体の中に組み込まれるモノが生き残っていくでしょう」とありました。いずれにしてもこれからのFDCの役割は愛知万博を契機に、世界的な情報の収集及び発信、他産業との交流等非常に大きなものがあります。今後ともFDCがより幅広い地場産業の核として活躍されることを望みます。



94SSFDCテキスタイルコレクション

## 理事 八木 忠男(佐織町長)

開館20周年を心よりお祝い申し上げます。

戦後21年生まれの私が小学校1年生の頃、父が織物業を始めました。昭和40年3月高校を卒業と同時に親機（協和毛織株式会社 昭和52年閉鎖）へ修行を兼ねて就職をし、一宮市、尾西市、木曾川町の染色、整理、修整、撚糸、ワインダー関係の会社を飛び廻っていました。

昭和45年父が急逝しましたので家業を受け継ぎドルショック、オイルショック、その後の大変厳しい繊維業界の中、家内労働の零細企業でありましたが、野村産業(株)、(株)中外国島、木の兵毛織(株)、(有)オクテキサービスさんなどのお仕事をさせていただきながら平成11年2月に休業をいたすまで繊維関連の多くの皆さんにお世話になりましたこと紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

そうした経歴を持つ一人として過去日本の復興、繁栄に多大な貢献をした尾州繊維産業の礎を忘却することなく、世界に向け発信ステーションとしてFDCが一層充実発展していただきます様ご祈念申し上げます私の思いといたします。

## 理事 墨 明(一宮商工会議所 副会頭)

人材育成部会長を拝命していた頃、(財)ファッション産業人材育成機構 (IFI) と縁があり、小売アパレル対象の充実したカリキュラムが組まれ、案内されており、FDCとの連携を働きかけておりました。6年ほど前よりIFIの関係で全日本デパートメントストアーズ開発機構 (ADO) のバイヤーの方々20数名が、毎年秋に研修の一環で当産地業務を研修されており、当社でも半日近く学んでいただいております。ミーティングしておりますと、川中、川下の双方が各々役割、

リスク分担、悩みについて無知なことが多くその溝を埋める必要がありました。この産地業態が大きく変容するなか、モノづくりをするだけでなく売る人の養成「マーケティング」が必要との認識から、昨年6月より養成講座をスタートし強力な講師陣のもとマーケティングを学んでいます。受動型から能動型・提案型産地（企業）になることを期待しております。



98/99AWFDCテキスタイルコレクション

### 理事 長尾 大八郎(尾西毛織工業協同組合 理事長)

従来は一般的な参加者としての立場でしたが、私自身FDCの理事に就任して以来はやくも6年が過ぎようとしています。FDC創立20周年の歴史の中で10年ほど続いた、パリ・オートクチュールの華やかなファッションショーの記憶が鮮明に焼きついております。又、定期的な年2回のFDCコレクションに代表されるトレンド展等々に幅広い活動が思い出されます。現在では若手グループによるネリーロディ社提携の「ユーロプロジェクトチーム」、また、発信のできる若手幹部の育成事業「マーケティング講座」等々さまざまな勉強会的色彩へと事業変化している今日この頃であります。

本来ならば、当地区の地場産業である毛織物業界自らがなさねばならない課題であるものをこのようにご指導、ご援助を仰いでいるのが現状であります。

今後、成果が期待されるものであり、産地活性化の力とならんことを願う次第であります。



00/01AWFDCテキスタイルコレクション

### 理事 安達 勝夫(津島毛織工業協同組合 理事長)

業界代表として約8年間FDC理事として関与してまいりました。この間いろいろの事がありました。アメリカ、ソ連の融和に端を発し、人、物、情報が地球規模で交流するようになり、又為替も戦後の360円が100円を切るようになりました。

国際的に大転換したことから我々の物作りも大転換を余儀なくされました。この難局をFDCの時代を先取りする事業を参考にして転換を計っております。業界としても高い評価を得ております。しかし、FDCの構成は県西部24の市町村で、地場産業対策が繊維などファッション以外の市町村にも対応できるFDCに代わる必要があると思います。更に、現在、各産地、各業界が県という枠組みを越えた仕組みが必要となってきました。産官学が一体となって新しい産業を生み出す必要があります。FDCはこのように新しい領域、新しい分野の核にならねばなりません。

FDCの発展は各市町村の発展に繋がります。みんなでFDCを支えましょう。

## 理事 佐々木 光男(一宮繊維卸商団体連合会 会長)

財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンター開館20周年を迎えられ、大変おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。FDCが愛知県、尾張西部地域24市町村、また業界18団体の出捐により、多大な期待と未来を担う重責を20年もの間維持・発展させてこられたのも、理事長の谷一夫様（一宮市長）、副理事長の豊島半七様のリーダーシップの下、事務局の皆様の弛まない努力と感謝申し上げます。

私がFDCで一番心に残る思い出は、現在愛知県知事の神田真秋様がまだ一宮市長の1995年11月の時のことです。当時メゾン「ギ・ラロッシュ」のチーフ・デザイナーであるミッシェル・クラン氏をFDCに迎えて、「ファッション・シンポジウム」を開催しました。その際、ミッシェル・クラン氏と同行して妙興寺を見学に訪れたのですが、氏が古い寺院に大変感激されたのを見まして、私も日本の文化を改めて見直し自信を深めました。

今、日本の繊維産業はグローバル化時代を迎え、中国など近隣アジアや東欧の追い上げにより空洞化が進んでいます。価格だけで競争しては到底太刀打ち出来ません。日本人であることを誇りに感じ、日本の文化や先人の知恵を生かし、日本の繊維技術を守り且つ発展させるためにも、FDCの役割はますます重要になると考えています。私も微力ながら尾州産地のお役に立てればと、FDCの理事の一人として心がけます。皆様、FDCの活動に積極的にご協力いただき、ともに新しい世界の尾州産地を築きましょう。FDCが30周年、50周年を迎えられますように努力しますので、今後とも宜しく願いいたします。



田中一史・タンブンフォンFDCコレクションショー

## 監事 石黒 靖明(岩倉市長)

一宮地場産業ファッションデザインセンター開館20周年おめでとうございます。

FDC創立当時より、社会経済情勢の変化によりFDCを取り巻く環境には極めて厳しいものがあると思いますが、この地域の地場繊維産業の振興に果たしてきた役割には大きいものがあると思います。

かつて、岩倉市には、愛知紡績や大松紡績などの大工場や中小の工場もたくさんありました。しかし、日本全体の繊維産業が衰退していく中で、織物を含め繊維関係の事業所などは減少し、現在では10数軒となっています。当時の大工場は、時代とともにマンションや大型スーパーに変わりました。また、新しい市民も増え、岩倉市が繊維産業の盛んな地域であったことを知っている人も少なくなってきました。

こうした状況の中で、当市議会においては、FDCの管理運営に参加することや今後のあり方についての議論もありました。今後、繊維関連の事業ばかりでなく、地域住民にもFDCが見える施策や繊維産業の他に、地場産業という名称でもあることから、地域の多様な産業の振興にも尽力をいただける施策を望むものであります。

## 監事 酒井 鉄(大口町長)

かつて、大口町が村であったころ、幾つかの紡績や衣料品製造の企業が村の工業誘致に応じ、町の財政基盤の確立に貢献しました。さらにさかのぼれば、村中に織機の音が鳴り響き、その音が村の元気を体現していた時代があったことを思い出します。

今では産業構造の変化やアジア諸国の発展のなかで、繊維産業は苦境の時代を迎えることになり、その苦境を打開するためにFDCが設立されました。しかし、そのFDCは今改革を求められる中で呻吟し、大きな壁に直面しています。

じつは、地方公共団体も今、政策能力と財政基盤を確立するという命題の中で改革を迫られています。合併の推進、構造改革特区への提案などの取り組みがそうです。

塩野七生はローマ人の物語Vで「人間にとっては、ゼロから立ち上がる場合よりも、それまでは見事に機能していたシステムを変える必要に迫られた場合のほうが、よほど難事業になる。後者の場合は、何よりもまず自己改革に迫られるからである。」と改革の困難さを見事に表現しました。自己改革の前には必ずといってよいほど強固な「バカの壁」が立ちはだかるものです。

FDCがこの壁を打ち破り改革を成し遂げ、地場産業の発展に貢献する姿を見ることは、これからの地方分権の確立に取り組もうとする者の励みになるのであります。



佐藤ヒサコ・村上大輔 FDCコレクションショー

## 専務理事 河村 博司

FDCは20周年を迎えましたが、尾州主要地場産業の繊維業界の状況は設立時と大きく変わりました。FDCでは、一昨年の改革小委員会意見書に添って、今年度から、よりビジネス寄りへ事業を見直し、その効果も各方面から大いに期待されています。

また、昨年度よりジャパン・テキスタイル・コンテスト開催委員会（JTC）、本年度より愛知県繊維振興協会の2つの事務局もFDCに置かれました。このことはあまり知られておらず、外部からはFDC、JTC及び振興協会のそれぞれの事業が多分区別できなく、内部でも時に惑うことが多々あります。それぞれの事業が互いに補完しながら進めていることからと思います。更に、隣接する愛知県の尾張繊維技術センターや毛工連、商工会議所等とも有機的に連携しながら各種事業を進めています。常に変革に対応し、よりビジネス寄りに、より幅広い地場産業振興を目指し、業界の発展を…と願っています。



02/03AWFDCテキスタイルコレクション